

2019年3月期第3四半期決算に関する主なご質問

- Q: 営業利益*差異分析について、「コストダウン、その他」累計△30億円中、第3四半期の△10億円の内容は？（決算説明資料 P.7）
- A: 建築用ガラス事業の北米において新製品の立ち上げに伴うコスト増が主です。第4四半期もこのコスト増は継続する想定ですが、来期には戻る見込みです。
- Q: 建築用ガラス事業で、東南アジアにおける競争激化とは？（決算説明資料 P10）
- A: 東南アジア、特にマレーシアにおいて競合他社が生産能力を強化したことが一般建築用ガラスの事業に影響しています。一方、太陽電池パネル用ガラスは、主要顧客の設備切り替えが進捗するにつれて売上が増えていきます。
- Q: 通期営業利益*予想の修正について。例年第4四半期において利益寄与度の大きい欧州自動車用ガラス事業が、第3四半期から減速している。前年比で第4四半期を増収・増益で予想する背景は？（決算説明資料 P13-14）
- A: 売上の増収基調は続くとみています。営業利益*は欧州自動車用ガラス事業における減速を想定し、コストダウンを織り込んでいます。追加のコスト削減施策を社内で積み上げて取り組んでいます。
- Q: 通期営業利益*予想の修正について。元の予想に対して、建築用・自動車用ガラスの下振れと高機能ガラスの上振れの程度は、それぞれのくくらいか？（決算説明資料 P14）
- A: 事業別の業績予想は開示していませんが、事業規模の小さい高機能ガラスが当初予想より改善するのに対して、規模の大きい建築用ガラスと自動車用ガラス、特に新車用ガラスが下振れするため、全体の営業利益*は下振れする見込みです。
- Q: 通期営業利益*予想の修正について。営業利益*の下方修正により、フリー・キャッシュ・フローの見込みも減るのか？
- A: 運転資本の増加や、前期に含まれていたノンコア資産の売却が今期はないことで、第3四半期においては前期比マイナスになっていますが、第4四半期で取り戻す計画です。
- Q: 足元で原油価格は一時期に比べて下がっているが、今後の業績に対してプラスに寄与するのか？
- A: 欧米での主な燃料は天然ガスであり、原油価格の動きと必ずしも連動しません。天然ガスの価格が高止まりしていることで、ヘッジはしているものの、第4四半期においても前年比のマイナス影響は継続すると考えています。

Q: アルゼンチンにおける超インフレ会計の影響の説明を。どの程度リスクがあるのか？（決算説明資料 P24）

A: 損益計算書では、通常連結の際に期中平均為替レートを用いるのに対して、超インフレ会計では、より変動の激しい期末レートを使う必要があります。その影響は主に第 2 四半期で発生しており、第 3 四半期においてはアルゼンチン通貨が安定したため影響は少なくなりました。今後為替レートの安定が続けばリスクは少ないものと考えております。アルゼンチンだけの事業規模は開示していませんが、フロート窯 1 ラインの事業規模です。

Q: 来期の見方は？VA 化の推進、コストダウンによる改善は継続するのか？

A: 欧州自動車用ガラス事業の状況を踏まえながら、来期の予算は現在作成中です。VA 化の推進やコストダウンを継続して中期経営計画の目標達成に向けて努力してまいります。

Q: 英国の合意なき EU 離脱が起こったと仮定した場合の影響は？

A: 建築用ガラス事業は地域地域の事業であるため影響は少ない予想です。一方、自動車用ガラスは欧州域内にまたがる事業であるため、自動車メーカーへの供給に支障が出ないよう準備を進めています。欧州全体でユーロ建ての取引なので英国ポンドの変動の影響はありません。

(* : 無形資産償却前営業利益)

以上

当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場の経済環境及び競争環境、製品需給、為替・金利相場、原燃料市況、法規制の変動等がありますが、これらに限定されるものではありません。